

※質問の全文を記載しています。
※「問」については、議員が提出した通告書どおりに掲載しており、編集は行っていません。



答弁中の中嶋町長

通学路の安全対策の今後は

「ゾーン30」等の計画で

問

現在、須恵町では、歩道が設置されていない通学路には、グリーンベルトの整備や、通学時間帯の一方通行で対応しています。しかし、これだけで安全対策が本当に十分なのかという点では、まだまだ不十分だと思います。

く、安心して子どもたちが通学できる環境づくりをお願いしたい。

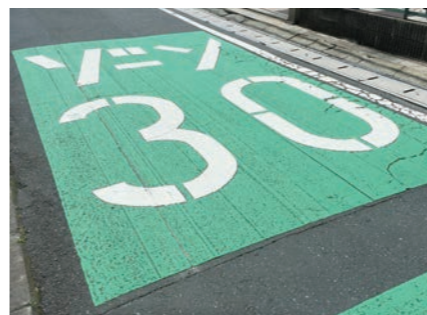
答 安河内都市整備課長

全国で登下校中の児童の列に車が突っ込むという事故が相次いだのを機に、関係機関と緊急合同点検を行い、横断歩道・信号機の設置、グリーンベルト・スピード抑制カラー舗装等の安全対策を実施してきました。



猪谷 繁幸 議員

今年度新たに、「ゾーン30」を町内三小学校区内に計画しています。これは、生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として区域を定め、最高速度30キロメートルの速度規制を実施するも



ゾーン30（施工例）

のです。区域決定については、町関係各課、校区コミュニティおよび柏屋警察署との合同協議会を立ち上げ、調整を図りたいと考えています。

答 中嶋町長

基本的には、運転者のマナーの問題があります。区長さんを中心として、地域の人たちの意見も十分参考にしながら進めていく必要があると思います。



安全対策工事が行われた通学路（カラー舗装）



地域

組合を存続させるための対策は

自助・共助の役割で

問

口永良部島で爆発的な噴火により、全島民が避難するといった現状があり、組合（区）や地域の絆の大切さが見直されています。地域のつながりが希薄化し、町内会活動などへの参加者が減少している地域も増えています。

住民同士の助け合いの意識が、災害時の被災者支援において有効に機能したり、住民

による防犯活動が、地域の治安向上に効果を上げたりしています。

ある組合では、30世帯あった組合員が16世帯になり、うち半数が70歳以上の高齢者世帯で、そのうち6世帯しか区役員をする者がおらず、来年には一つの組合が消滅の危機にあります。町による対策は、

答 今泉総務課長

先般の口永良部島大噴火の際に、全島民が安全裏に屋久島に避難されたことは、自助・公助（消防団・警察・町役場の力）、それ以上に共助の部分での役割が強く働いたのではないかと思います。災害時には、顔が見える隣組のつ



上須恵区自主防災組織避難訓練の様子



入を促進をしていただくことはできると思っています。

また、個人情報情報は、マイナンバー制度の施行を控え、制度開始に向け個人情報保護条例の改正を行わなければなりません。これまで以上に厳格な取扱いが求められており、罰則の強化も図られているところではあります。

きあい非常に大事だと言われますが、役員になりたくないからといって組合を脱退されるという話も聞きます。組合未加入世帯の情報を知らせてほしいとのことですが、区長さんや連絡員さんは、組合の区域の範囲は把握されているので、詳しい世帯情報がなくとも、範囲内のご家庭を訪問されるなどして、組合加